

2024 年度第 4 回地域医療支援委員会 議事録

【日 時】 令和 7 年 3 月 5 日（水）13：30～14：20

【場 所】 四日市羽津医療センター 4F 第一会議室

【出席者】 鳥井孝宏（当会委員長、四日市医師会常任理事）、柴田英治（当会副委員長、四日市看護医療大学学長）、伊藤誠也（四日市市北消防署署長）、内田寛（羽津地区連合自治会会長）、以下 当院職員

山本隆行（院長）、岩永孝雄（副院長）、石井雅昭（附属介護老人保健施設長代理）、後藤信二（事務部長）、牧野真美（看護部長）、伊東亜矢子（附属訪問看護ステーション看護師長）、中島佐知子（地域連携室看護師長）、位田弥生（総務企画課長）、森田幹治（健康管理センター管理課長）、中川佳代（附属介護老人保健施設管理係長）、荒川真行（当会事務局、総務企画課課長補佐）

【欠席者】 高司智史（四日市市保健所所長）、山路和良（四日市市自治会連合会会長）、徳山直子（三重県乳腺患者友の会 『すずらんの会』 代表）、長谷川浩司（副院長）

○開会挨拶<山本院長>

本日は、お忙しいところお集まり頂きありがとうございます。現在、医療業界を取り巻く環境は非常に厳しく、診療報酬は上がりず医療経費は益々上がり、少子高齢化によって労働人口は減少し、医療スタッフも不足しています。当院でも医師、看護師、特に薬剤師の不足が、今後大きな問題になっていくと考えています。

そして、私を含め、当院の管理者が代わり、新体制となり 1 年が経とうとしています。この 1 年に行ったことを次年度に繋げていかなければならないと考えています。まず、力を入れたのは救急体制の強化です。恥ずかしい話ですが、当院の救急車の救急応需率は 70% を割っていました。現在は約 85% の応需率へ上がり、年間の救急車の応需台数は、前年度は約 1,400 件程度でしたが、今年度は 2,000 件に近い台数になると想定しています。救急体制は、当院は大きな病院と違い救急科はなく、日中の救急応需は、医師が自分の診療を行いながら、連絡を受けた救急患者を受ける体制で、これだけの成果をあげていますので、自分でも評価できるのではないかと考えています。更に、駐車場の改善、Wi-Fi 整備、給食をクックチルから当院で調理を行うように変更して改善を図っていきます。

1. 四日市羽津医療センターからの報告事項

・病院の現況報告について

<岩永副院長>

【資料参照】

令和 6 年 4 月～12 月病院現況報告

初診患者数と紹介患者数

初診患者数は令和 4 年から令和 6 年にかけて減少傾向。10 月以降も初診患者数、紹介患者数も変わらず減少。

病診検査の現状と CT 検査

病診検査数は令和 4 年から令和 6 年にかけて減少。検査別では、CT や胃カメラはわずかに増加しているが、MRI や PET が大きく減少。

救急患者受入れ強化の取組み状況

今年度は救急患者の受入れ強化に継続して取り組み、若手医師、中堅医師が頑張った成果が表れている。いずれの年も4月～12月までの3/4期だが救急車受入れ台数も輪番日応需率も増加。

1日平均入院患者数

令和6年度は、R4年度、R5年度と比較し、大幅に増加。但し、7月から9月は目標値160人をほぼ達成。10月から12月は未達成。

新入院患者数

先ほどの1日入院数と概ね比例。目標値400件に届いていない月があるが、今年度は過去2年に比べてどの月も増加。

(副委員長)

救急患者がかなり増えていますが、無理をされていませんか。

(回答)

無理をしているわけではなく、救急患者を受けることの重要性を院長から全職員へ伝え、意識改革を行った結果です。特に若い医局員が応じてくれて好循環が生まれています。但し、すべての疾患を受入れできる訳ではないのが当院の課題です。

(委員長)

初診と紹介患者が減り、入院患者数が増えているのは在院日数が増えているためでしょうか。

(回答)

在院日数が長くなっている訳ではなく、救急の受け入れを積極的に行った結果と考えています。紹介患者の減少については、理由は不明です。

(委員長)

患者さんの年齢層が高くなり、在宅だったのが施設へシフトし、紹介患者が減っている可能性があるかと思います。

・健康管理センターの現況報告について

<森田管理課長>

【資料参照】

施設健診 月別件数推移、1月のまでの累計は前年度比▲809件。

月別件数生活習慣病予防・人間ドック 1月までの累計は前年度並み

月別件数、法定健診 1月までの累計は前年度比▲353件

住民健診 概ね前年度並み

巡回健診 1月までの累計は前年度比▲809件。大手企業が離れた影響。

生活習慣病予防・人間ドック 1月までの累計は前年度比▲394件。但し、売上は増加

法定健診 1月までの累計は前年度比▲415件。

令和6年度取り組み

・施設健診 胃カメラ枠増、腹部エコー枠増、新規オプション検査 脳ドック「AI脳健康検査」の導入

・巡回健診 新規事業所の獲得、ドック車の活用（腹部エコー、眼底検査など）

・特定保健指導 前年比+200件、健診当日の受診勧奨・指導勧奨、ICT化

胃カメラ 検査枠 令和6年6月より、1日あたり検査枠増、

実施件数 前年度比増、年間3,000件以上実施可能。

・脳ドック実施件数 前年度比増

特定保健指導 院内・院外実施件数、前年比+200件。タブレット端末を使用、当施設から保健師が指導することや、営業活動にて件数増加。

(副委員長)

健診者数ではなく、企業数での集計はありますか。

(回答)

企業数では増減が分かり難く、健診者数としています。1つの企業が他へ逃げられたとして、企業数は1減でも大企業では1,000人規模で減少となります。

(副委員長)

大手を取ったり、取られたりは価格競争でしょうか。

(回答)

その通りです。あとは、健診データが紙ベースなのか、ウェブ上での配信なのかでも影響があると考えます。

・介護老人保健施設の現況報告について

<石井施設長代理>

【資料参照】

入所者平均前年度比 前年同月比で増加。

入所前所在 昨年度比較で、自宅から入所が増加。

年度別再入所・再利用者割合 再利用者の割合が多い。

在宅復帰率 10月以降前年度同月を下回っている。

退所先別 令和6年度自宅が39%で一番多い。

通所者平均前年度比 前年度比で減少。

通所新規利用者数 令和6年度はデイケアのお試し体験を実施し、前年度比で増加。

(委員長)

在宅復帰率の計算方法を教えてください。

(回答)

6月間の退所者数と在宅で介護を受けることになった人の割合で計算します。

【計算式】

$$\frac{(\text{自宅・高齢者向け集合住宅への退棟患者数}) + (\text{他院の回復期リハ病棟などへの退棟患者数})}{(\text{全退院患者数} - \text{「死亡退院数」} - \text{「自院の他病床への転棟患者数」})}$$

・訪問看護ステーションの現況報告について

<伊東看護師長>

【資料参照】

訪問看護ステーション運営状況

月別利用者数 目標値85人 令和6年度は目標に達していない。

月別のべ訪問件数 目標550件 令和6年度は目標に達していない。

利用者の医療保険・介護保険の割合 医療保険の割合が増加。

地域別の利用者一覧 四日市市、北地域の羽津地区が最も多い。

利用者の年齢別分布 80~89歳の割合が多い。

介護保険利用者の介護区分とサービス内容 要介護5 18%、要介護4 16%、要介護3 14%、要介護2 9%、要介護1 18%、要支援2 18%、要支援1 14%。

令和6年度のお見取りの件数 1月末で20件。令和5年度は23件。

当院の訪問看護ステーションの強み 24時間365日対応可能。特定行為研修修了看護師、各種認定看護師、必要時は入院可能。通所リハビリ、老健、地域包括ケア病棟とも連携。

(副委員長)

以前にマンパワー不足と伺ったが大丈夫ですか。

(回答)

今は利用者が減っており、現状の利用者数であれば大丈夫です。但し、業務外ではありませんが利用者を支えることが多くなってきています。老々介護の方が増え、生活の基盤を支える為に、行政や地域に繋げるなどの活動をするが多くなってきています。

(委員長)

市内の訪問看護ステーションは利用者が減っていると聞いている。唯一、菰野厚生会の訪問看護が訪問地域の拡大とスタッフを増員で利用者が増えている。状況としては、利用者の取り合いとスタッフの取り合いが起こっている。重症者の方を狙って取りにきている施設もあり医師会で問題となっている。大変だと思いますが頑張って下さい。

(回答)

最後まで看取る施設も増えてきており、病院附属でのメリットを生かし頑張ります。

2. その他

なし

3. 意見交換

なし

4. 閉会挨拶<岩永副院長>

令和6年度最後の会になりましたが、次年度はより良い報告ができるよう、引き続き努めて参ります。

次回開催は改めて日程調整を行います。